



『古市』の地名考

【担当】小井戸 茂

古市地区に『古市』という町名は存在しない

現在の旭区内には、普通の地図の上では『古市』という町名は見当たらない。しかし、「古市小学校」、「古市連合町会」、「古市会館」などのような施設、組織、団体などの名称で『古市』の地名は広く使われている。これは地区の名称として用いられているのであって、この場合の『古市』は古市小学校の通学区域(校区)を指している。すなわち森小路、今市、千林の3町に限定した地域を指していると一般に理解されている。だが昔からこの3町だけの地域を『古市』と呼んでいたわけではない。もっと広い地域が『古市』であった。以下、『古市』の地名についての考察を述べたいと思う。



古市小学校

『古市』小学校の名に見られる『古市』村の名残

前述のごとく、現行の『古市』の地名は『古市』小学校からきているのであるが、同校が『古市』の校名を名乗るのは大正11年12月10日、それまでの東成郡組合立千林尋常高等小学校(創立は明治6年7月)の校区が東西に分離し、新たに東に村立清水尋常高等小学校、西に村立『古市』尋常高等小学校が開校してからである。両校の校名は、それぞれ村名の清水村および『古市』村に基づいている。このように校名が村名からきているならば、この『古市』村の誕生によって『古市』という地名が地図の上に登場し、一般に知られるようになったとみてよい。

古代に『古市郷』と呼ばれたことから『古市』村と命名

『古市』村の誕生は明治22年4月1日、「市町村制」施行によって、従来の南島村、森小路村、今市村、千林村の4村が合併してできたものである[地図①参照]。そして旧村名はそれぞれ大字名として残された。4村合併といえば大規模化したように聞こえるが、当時(明治22年)の人口は4村合わせても1,800人余り、戸数にして300軒足らずの純農村であった。古市村役場は旧千林村野崎街道沿い(現在の千林交番の向かい側)に置かれ、村長以下7名の吏員で村政事務を執っていた。ところで古市村発足に際して新しい村名を何とするか、様々な案が検討されたようであるが、結局、当村の初代助役に就任する森小路村出身の鳥山庄右衛門氏(後に明治28年4月第3代村長に就任)が、この地域が古代に『古市郷』と呼ばれていたことを知り、古代地名の『古市』を村名としたのである。すなわち同氏が『古市村』村名の命名者である。しかし命名に当たって同氏がはたして古典籍に通じていたかどうか、また助言があったのかなど、その経緯は分かっていない。ともあれ古市村は、同時に誕生した城北村や清水村の命名が村の位置や神社に由来して簡明に命名されたのに比べ、難しい古代の地名に由来する深い由緒を持つことは確かである。言うなれば長い間埋もれていた古代の地名が明治中期になって当村で復活したのであった。

